

■コメント

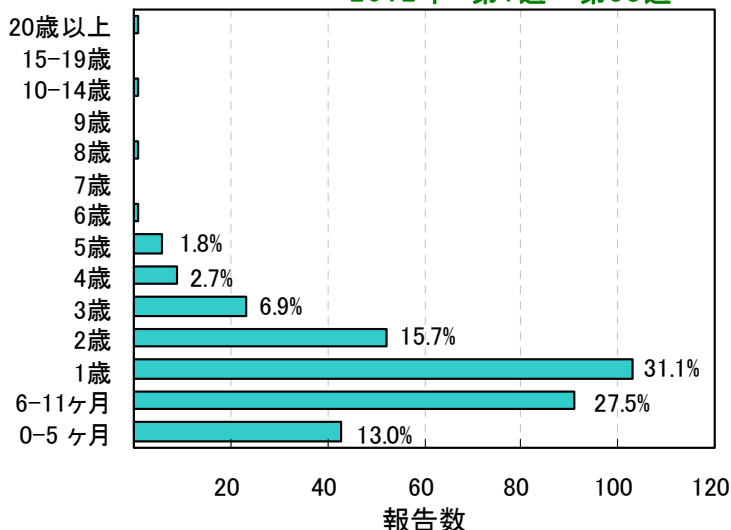
1. RSウイルス感染症

29人(定点当り1.21人)報告されており、先週と比べてやや増加しました。全国的にも増加傾向であり、今後の動向に注意が必要です。

2012年第1～38週の累積報告数(331)の年齢階層別割合をみると、0歳40.5%(0-5ヶ月13.0%、6-11ヶ月27.5%)、1歳31.1%、2歳15.7%、3歳6.9%、4歳2.7%の順であり、0歳の報告割合が最多を占め、次いで1歳、2歳の順であり、2歳以下で全報告数の約87%を占めています。RSウイルス感染症は、年齢が低いほど重症化しやすいため、特に乳幼児においてはより一層注意が必要です。

2. 日本紅斑熱

1件の報告がありました(次頁参照)。

RSウイルス感染症年齢階層別報告数
2012年 第1週～第38週

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注)	発生記号	疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注)	発生記号
インフルエンザ	-	-	0.64		ヘルパンギーナ	8	0.33	0.45	
咽頭結膜熱	1	0.04	0.21		流行性耳下腺炎	2	0.08	0.59	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	11	0.46	0.60		RSウイルス感染症	29	1.21	0.15	
感染性胃腸炎	80	3.33	2.76		急性出血性結膜炎	1	0.13	0.03	
水痘	10	0.42	0.50		流行性角結膜炎	5	0.63	0.53	
手足口病	5	0.21	0.69		細菌性髄膜炎	-	-	0.03	
伝染性紅斑	2	0.08	0.12		無菌性髄膜炎	3	0.43	0.06	
突発性発しん	6	0.25	0.62		マイコプラズマ肺炎	2	0.29	0.26	
百日咳	3	0.13	0.12		クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	

急増減 ↑ ↓ 前週と比較しておおむね1:2以上の増減

増減 ↗ ↘ 前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減

微増減 ↖ ↙ 前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減

横ばい ⇨ ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当り)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	3	221	男性(60歳代)・1人、女性(60歳代)・1人、男性(70歳代)・1人
4	日本紅斑熱	1	1	男性(10歳未満)・市外

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

		インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
報告数	広島市	第34週	-	3	7	60	17	6	11	2	25	6	3	1	3	-	1	4	-
		第35週	-	4	6	61	5	2	11	4	8	6	15	-	2	1	-	8	-
		第36週	-	4	16	89	21	3	9	1	11	3	20	-	3	-	-	2	-
		第37週	-	3	15	85	11	1	11	5	8	8	20	-	2	-	2	4	-
		第38週	-	1	11	80	10	5	6	3	8	2	29	1	5	-	3	2	-
定点当り	広島市	第34週	-	0.13	0.29	2.50	0.71	0.25	0.08	0.46	0.08	1.04	0.25	0.13	0.13	0.38	-	0.14	0.57
		第35週	-	0.17	0.25	2.54	0.21	0.08	0.13	0.46	0.17	0.33	0.25	0.63	-	0.25	0.14	-	1.14
		第36週	-	0.17	0.67	3.71	0.88	0.13	0.13	0.38	0.04	0.46	0.13	0.83	-	0.38	-	-	0.29
		第37週	-	0.13	0.63	3.54	0.46	0.04	0.08	0.46	0.21	0.33	0.33	0.83	-	0.25	-	0.29	0.57
		第38週	-	0.04	0.46	3.33	0.42	0.21	0.08	0.25	0.13	0.33	0.08	1.21	0.13	0.63	-	0.43	0.29
全国		第36週	0.20	0.34	0.81	3.15	0.50	0.89	0.07	0.70	0.04	1.00	0.34	0.89	0.01	0.60	0.04	0.04	1.08
		第37週	0.23	0.38	0.89	3.22	0.42	0.98	0.07	0.71	0.03	0.88	0.40	1.21	-	0.60	0.01	0.08	1.10

■新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
無菌性髄膜炎	発熱(40.0) 髄膜炎 嘔吐	1	男	2012/07/18	糞便	コクサッキーウイルスB5型
					糞便	エコーウイルス6型
					髄液	エンテロウイルスNT
その他の呼吸器疾患	発熱(39.0)	0	女	2012/08/19	咽頭拭い液 糞便	エコーウイルス1型
その他の呼吸器疾患	発熱(39.0) 上気道炎	0	女	2012/08/17	鼻汁(拭い液)	ライノウイルス
その他の呼吸器疾患	発熱(40.0) 上気道炎 気管支炎	0	女	2012/08/03	鼻汁(拭い液)	ライノウイルス
その他の呼吸器疾患	発熱(38.5) 肺炎	6	女	2012/08/03	鼻汁(拭い液)	RSウイルス
その他の消化器疾患	発熱(38.5) 上気道炎 腹痛	4	女	2012/07/03	鼻汁(拭い液)	コクサッキーウイルスA4型
その他の疾患	発熱(38.1) 頭痛	8	男	2012/08/02	髄液	エコーウイルス19型
その他の疾患	発熱(39.0)	0	男	2012/08/20	糞便	エコーウイルス6型
その他の疾患	発熱(38.5) 熱性痙攣	1	女	2012/08/08	糞便	パレコウイルス4型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】日本紅斑熱とは

日本紅斑熱は、日本紅斑熱リケッチアを保有するマダニ類に吸着されることで感染する病気です。2～8日の潜伏期間を経て、頭痛、倦怠感、高熱などを伴って発症します。広島県内では、1999年から2011年9月末までに62人患者が発生しています。主に県東部の尾三地域を中心に患者が発生していますが、県西部でも感染が確認されており、今後も注意が必要です。また、患者の発生時期はほとんどが4月～10月であり、この時期は特に注意してください。

感染を予防するためには、野山に入るときは、長袖、長ズボンなどを着用して皮膚の露出を少なくしダニの付着を防ぐ、ダニ忌避剤を使用する、作業後入浴し、付着したダニをピンセットなどで除去するなどの対策をとることが重要です。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2012年第38週(9月17日～9月23日)